

校長室より

「天空高き」



第114号



平成30年11月9日

サザンクロス校訪問 —Seeing is believing.—

10月21日（日）～27日（土）、六年制普通科1年生のオーストラリア修学旅行に行ってきました。

今回の目的の一つは、姉妹校のサザンクロス校との学校交流です。

全体の集会で、本校の生徒たちは、英語で本校と岩国市の名所等を見事にプレゼンしました。また、楽学祭で披露したパフォーマンスで、サザンクロス校の先生方や生徒たちも十分に楽しんでくれました。

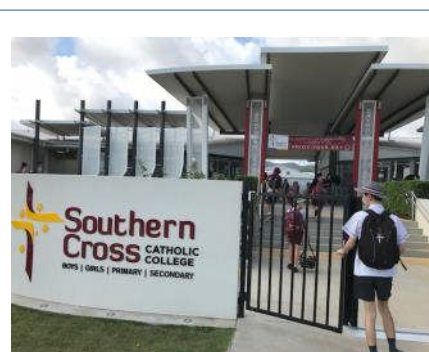
2限目は、生徒達は2グループに分かれて、日本語の授業に参加しました。3限はさらに分かれて、生物・劇・スポーツ・政治などの授業を参観しました。

私も一緒に授業を参観しましたが、先生方は生徒たちが集中力を切らさないように、作業やクイズ形式の発表・体験等を合間に入れて、授業を展開されていました。

私が驚いたのは、サザンクロス校の時間割です。1・2限の授業、3・4限の授業、5・6限授業の間には休憩時間がありません。授業中にトイレ等に行きたいときは、手を挙げて先生の許可を得ていました。

また、2限後と4限後には30分間のBreak Timeという時間があって、その時には果物やサンドイッチ、スナック菓子などを広場に集まって自由に食べていました。日本のような昼食時間をきちんと取るという形ではありませんでした。

所変われば、生活様式や考え方が全く異なる、ということが体験できたことは、今回の修学旅行の大



きな収穫でした。

付中クリーン大作戦～愛宕地区社会福祉協議会と共に～

10月20日（土）午後から、付中恒例のクリーン大作戦を、愛宕社会福祉協議会の環境生活対策部と交通対策部との協同で実施しました。昨年は雨のために中止でしたが、今回ボランティアで参加したのは、49名。4班、南岩国駅コース・ユメタウンコース・医療センターコース・尾津交差点コースに分かれて、道沿いの草取りとゴミ拾いをしました。

事故のないようにと、いつも愛宕社会福祉協議会交通対策部の方々が先回りして、安全に配慮してくださいました。

集められた草やゴミ等は、学校に持ち帰って分別しますが、いつもびっくりするくらいのゴミの量です。

本校はユネスコスクールの一環として、環境教育に取り組んでいます。ペットボトルのふたやプルタブの回収を行っています。

あらためて3R、Reduce（リデュース）、Reuse（リユース）、Recycle（リサイクル）に心がけてください。特に「リサイクル」の前に、まず、身近な毎日の生活の中で、ごみを出さないための心がけ「リデュース」と「リユース」が大切です。



11月 月間目標

Challenge !

平成30年度
チャレンジ目標

1. 先に元気なあいさつ
2. 5分前行動
3. 1%を誰かのために

チャレンジなくして成長なし

アドラー（心理学者）は人が成長できなくなるのは”限界があるから”ではなく”限界があると思ってしまうから”と説いています。

私たちは、今までに「負け・挫折・失敗」を何度も経験してきました。

あのとき負けたから、あのとき失敗したから、あのとき挫折したからと過去に縛られ、その中で知らず知らずのうちに自分の限界を決め、自ら壁をつくってしまいがちです。

私は人には死ぬまで無限の可能性があると信じています。また、そう信じチャレンジし続け、自己の可能性を広げてきた人がたくさんいると思います。

皆さんも、チャレンジし続け、そこからい

ろいろなことを学びながら、自己の可能性を広げてください。

知っていましたか？ 一校歌と校章の由来一

5 時限前の予鈴で校歌が流れます。皆さんは校歌がいつ頃制定されたか知っていますか？

本校の校歌は、大正 12 年 4 月に制定されました。教員や生徒の中から委員を選定して、歌詞は宮川忠蔵先生（初代理事長、第 4 代校長）が、作曲は呼坂（周南市）に在住の佃又助氏により、決められました。

また、校章は、右にあるように、高水村塾時代、高水中学時代とそれぞれ異なったものが使用されていたようです。

現在の校章は、昭和 23 年 4 月に新制高校の発足と共に制定されました。

中学部は、高水中学時代の、「鷹に中」の徽章（きしょう）がそのまま継承されました。

高校の方は新しい構想の下に、立派なもの、他の追従を許さぬ意味深いものにしたいとの念願から、当時の職員、生徒から広く図案を募集したそうです。しかしなかなか決まらず、昭和 23 年 2 月の臨時理事会において、「高」を中心に、The pen is mightier than the sword.（文は武よりも強し）のペンを「水」に組み合わせたらとの発案があり、当時の江田周三教諭の画によって完成したのが現行のものでした。「山高くして水清く、文化の中心高水高校」と読めばよいとのことでした。中央の「高」は「高水」の「高」と「高校」の「高」を意味します。

現在は使用されていませんが、帽子もあり、中・高ともに、高水村塾時代からの伝統で、2 本の白線が入ったものでした。男子の帽子は男子の制服が学生服（学ラン）からプレザータイプに変わった平成 3 年から順次廃止されたようです。

蛇足ですが、男子の髪型が原則丸坊主から長髪も許可されたのは、昭和 45 年からでした。岩国市内では本校が最初でした。

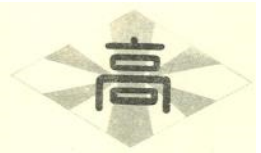
感動・笑い・夢

感動は人を変える 笑いは人を潤す 夢は人を豊かにする
そして、感動し、笑い、夢を抱くことができるのは人間だけである

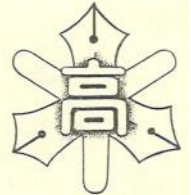
「心に響く小さな5つの物語Ⅱより」



中学校の徽章
(紫色は品格鷹は雄渾を表わす)



塾時代の徽章



カットは現在の校章



私たち人間は、他の動物にはないものをたくさん持っています。「感動・笑い・夢」もその一つです。

感動するのも、笑うのも、そして夢を抱くのも、その場所は人間のどこでしょうか。皆さんはその場所は頭部の脳だということはすでに知っていると思います。その通りですが、私はあえて、それは「こころ」だと主張したいと思います。

広辞苑で、「こころ【心】」を引くと、「人間の精神作用のもとになるもの。また、その作用」とあります。「からだ」の対義語とあります。

「からだ」はヒトが生まれ成長し、やがてピークを過ぎると年齢と共に衰えていきます。しかし、「こころ」は年齢と共に成長し続け、豊かになります。

ちょっと一息—幸福に生きるヒント—

ある雑誌を読んでいて、こんな文章に出会いました。

・・・以前インドへ行った時に、感じのいい日本の若者たちと出会いました。彼らは皆、自分で貯めたお金を使って誰の迷惑も掛けずに、長期間インドを旅行していたんですけど、私と同行していた神父さんがこう言ったんです。

「彼らは少しも幸せそうには見えなかった」と。「どうしてですか？」と私が聞くと、「彼らは自分のしたいことをしているだけで、人としてすべきことをしていないから」とおっしゃったんです。

自分のしたいことを自分の力ですると同時に、他者のためにさせていただくという気がない人間は大人とは言えない。真に幸福な人生も生きられない。だから、七割は自分の楽しみ、三割は育てたいもののためにお金と時間を使う。年を取れば取るほどそういう人間になれるといいですね。・・・

24節気

立冬（りっとう）：11月8日頃（2018年は11月7日）。および小雪までの期間。立冬とは、冬の始まりのこと。

「立」には新しい季節になるという意味があり、立春、立夏、立秋と並んで季節の大きな節目です。 ※これらを四立（しりゅう）といいます。

朝夕冷えみ、日中の陽射しも弱まって来て、冬が近いことを感じさせる頃。木枯らし1号や初雪の便りも届き始めます。立冬を過ぎると、初霜が降りて冬の佇まいへと変わります。この日から立春の前日までが冬。

小雪（しょうせつ）：11月23日頃（2018年は11月22日）。および大雪までの期間。北国から雪の便りが届く頃ですが、まだ本格的な冬の訪れではありません。雪といってもさほど多くないことから、小雪といわれたものだそうです。陽射しが弱くなり紅葉が散り始めるころで、いちょうや柑橘類は黄色く色づいてきます。次第に冷え込みが厳しくなってきますので、冬の備えは整えておきましょう。

出典「日本の行事・暦」